

# 堀の外来生物駆除

東雲高校 自然科学部 在来種の増加確認

篠山東雲高校の自然科学部がこのほど、篠山城跡の南馬出堀と東馬出堀で外来生物の駆除活動を行った。前日に仕掛けた定置網やもんどりで捕獲した外来生物と在来種の数を数えたところ、2020年から毎年、駆除活動を続けてきた効果が確認され、在来種の数が増加していることが分かった。

外来生物の増加により、モツゴやスジエビなどが在来種の数が減ったことや、近隣住民が外来のウシガエルの鳴き声に悩まされていることから駆除に乗り出し、今年で7年目。



外来生物の駆除活動に励む篠山東雲高校自然科学部。丹波篠山市北新町で

同部4人に加え、教職員やOB・OGの計9人で活動した。東馬出堀では10のもんどりを回収したほか、定置網は部員らが胴長を着て堀に入り、手持ちのたも網で水面をたたいたりして生物を追



前日に仕掛けた定置網を回収する部員たち

い込んだ。捕まえた生物を数えるなど、外来種はアメリカザリガニ71匹（昨年同期比111匹）、ブルーギル14匹（同25匹）、ウシガエルのオタマジャクシ270匹（同265匹）だった。在来種のモツゴ636匹を確認、記録を取り始めた23年より301匹多かった。在来種は

元の堀に戻し、外来生物は駆除した。

さん（1年、上野台中出身）は、「特にもんどりで多くの生物を捕獲できたが、まだ外来生物は多い。生態系の保護に向けた活動ができれば」と話していた。同部は9月まで毎月、この活動を続け、データをまとめる。

2026年5月17日

丹波新聞